

森本ふみお市議は9月10日開会の井原市議会9月定例会の中で、12日に一般質問をしました。このたびの質問で、平成元年6月議会定例会での初質問以後連続94回目の質問になります。次に質問・提言と答弁の概要をお知らせします。

1. 子どものいじめの実態と対策はどうなっていますか。

★いじめの定義を質問。また、「いじめ」をできるだけ少なくするための、学校・教師、保護者との相談や情報交換を強め、子どもたちの声をよく聞き、子どもたち自らが「いじめ」をなくす話し合いの機会をしっかりと持つような条件づくり等を提言しました。

2. 中学校での武道必修化で柔道着による皮膚感染症の伝染が懸念されますが、対策は万全ですか。また、柔道着はすべて学校で購入を。

★洗濯をこまめに行い、洗濯してないものは他人に貸さない。格技場等は洗剤で拭き掃除をする。症状が見られたら受診するよう指導する。柔道着の着購入は原則保護者負担。ただ授業時間数が短い場合は、学校が購入し生徒に貸与する。

3. 小田川決壊を想定した避難訓練で明らかになった公助の課題は。

★避難所の確保が必要なので、民間事業所と避難所契約を進める。あらゆる機会を通じて緊急情報を伝え市民啓発に努める

4. 市有墓地の実態調査と台帳整備は、その後どの程度進んでいますか。

★現地確認は完了。貸出可能が3区画ある。



5. 幼・小・中・市立高校の普通教室にエアコンの設置を。

★井原中学校の全面改築のめどが立った後、今年度中に設置するための諸課題を調査・研究する。

6. 早期に入居できる市営住宅にすると同時に今後の建設計画は。

★退去後1日でも早く募集できるよう鋭意準備する。現在、建設計画はないが、今後個別に検討していく。

7. 高齢化等により地域内の草刈りや溝掃除ができなくなった地区に対する市の対応の強化を。

★対応が困難だという地域があれば、市へ遠慮なく要望いただければ対応する。



衆院比例中国
ブロック候補
石村ともこ



弁護士
元参議院議員
仁比そうへい



衆院岡山5区
候補
古松けんじ

周りの人に「日本共産党森本ふみお後援会」への入会をお勧めください。

日本共産党はこう考えます

しんぶん赤旗
「主張」より

オスプレイ「安全宣言」 アメリカいいなり極まった

米海兵隊が沖縄の普天間基地に配備を予定している新型輸送機オスプレイについて、日本政府が「運用の安全性は確認された」と一方的に宣言し、「飛行運用を開始する」ことを受け入れました。

日本政府の同意を受け、米軍は山口県の米海兵隊岩国基地に陸揚げしたままのオスプレイ12機の試験飛行をおこない、沖縄県の普天間基地に移動させて10月から運用を始める予定です。配備に反対している沖縄県民や国民の頭越しで配備や運用を受け入れるのは、断じて容認できません。

運用の安全保証しない

オスプレイの運用について日米合同委員会で合意した後、森本敏防衛相は記者会見で、国民の理解が得られなくても、日本政府としての「安全性」の確認作業が終わったので「アメリカの飛行運用が始まる」とのべました。まったく国民を無視した姿勢です。

もともと日本政府は、オスプレイの配備は米軍が決めることで日本は口出しできないという態度でした。政府としても運用の安全を確認したのはそれだけ国民の反対が強かったからですが、政府が確認すれば問答無用で国民に押し付けるというのは横暴のきわみです。日米軍事同盟を絶対視し、沖縄県民の願いも全国各地の自治体・住民の願いもふみにじる、理不尽な態度は絶対に許されません。

日米両政府が日米合同委員会でまとめた運用ルールも、住民の不安を払拭（ふっしょく）し安全を保証するどころか、安全とは程遠いものです。

ヘリ機能と固定翼機能を併せ持つオスプレイはヘリモードで離陸し、固定翼機モードに転換する時がもっとも危険といわれます。4月のモロッコでの墜落事故はそのためでした。



ところが合意は、ヘリモードでの離陸は基地内とするものの、「転換」はできるだけ短時間でというだけで、基地外での転換も認めています。米軍の環境調査報告書は、着陸時は普天間基地から約5キロのところまでヘリモードに転換すると明示しています。普天間基地周辺の市街地上空で転換し、もし墜落すれば大事故になります。日米合意が市街地上空での転換を認めたのは重大です。

低空飛行や学校、病院の上を飛ぶのを制限したというのも何の保証にもなりません。合意が地上から150メートル以上を飛ぶとする一方で、「その高度を下回る飛行をせざるを得ないこともある」とのべているのはその一例です。

これまでも沖縄では、米軍機の低空飛行などを規制する取り決めがあっても守られたためしはありません。沖縄県民が日米合意を信用せず批判するのは当然です。

沖縄と本土連帯して

オスプレイがちょっとした操縦ミスでも墜落するのは、「運用」やパイロットの「人為ミス」のためだけではなく、オスプレイそのものに事故が起こりやすい、構造的な欠陥があるためです。いくら運用ルールを決めても危険をなくすことはできません。

オスプレイが配備される普天間基地は米国防長官でさえ「世界一危険」と認めた基地です。「世界一危険」な基地に欠陥機オスプレイの配備計画は撤回させるしかありません。アメリカいいなりの政府を追い詰め配備を中止させる、沖縄と本土のたたかいがいよいよ重要です。

この「後援会ニュース」は森本ふみお議員の
ブログ (<http://jcp-seibu.sakura.ne.jp/morimoto/>) でも見れます。

ご意見・ご要望および情報をお気軽にお聞かせください。